

伝統と実績！銘石「カラハリ」のご案内

JSC 貿易部ニュース インド編

日増しに暖かくなってくる季節、皆様ますますご健勝のことと存じます。

先月、岸田首相がインドを訪問し、モディ首相と首脳会談を行いました。テレビや新聞でニュースとして大きく報道されていたのでご覧になられた方も多いと思いますが、現地インドでも各メディアで大きく取り上げられていました。

インドで購読者数第二位の新聞社”ヒンドゥスタンタイムズ”は、「モディ首相、岸田首相はウクライナ紛争とインド太平洋地域の安定について語り合った」との見出しで掲載。

ウクライナについての共同声明では「国際法に基づいて紛争の平和的解決を求める」との認識で一致していましたが、ロシアへの批判などは盛り込まれなかったようです。

ロシアとも友好関係を持ち、中立的なスタンスをとるインド。日本とは立ち位置の違いが見えます。

しかしながら、両国の関係は極めて良好です。

今回のインド訪問では、今後5年で官民あわせて5兆円（約420億ドル）の対印投資計画を発表。この投資についても、インドのメディアでは大きく取り上げられていました。

「日本から420億ドル（5兆円）の投資、岸田とモディは『絆は深まっている』と述べた」との見出しが”インディアンエクスプレス社”の記事にありました。





中身も「グローバル・パートナーシップの関係強化以降、経済協力においても著しい成長があったことに互いに感謝の意を述べた」と終始友好的な内容です。

当社のパートナーや工場関係者も、もこの5兆円の投資計画に対しては一様に、

「とても素晴らしい事です!」「うれしいです。お祝いの言葉を贈ります!」「未来が良くなって欲しいです!」「日本大好きです!」「Congratulations! (おめでとう!)」等の賞賛の声でした。

一方、日本国内の世論に目をやると、「国民生活向上をもっと優先すべき」や、「日本の外交において大きなメリットは無い」など、賛否両論ありますが、この投資によって未来の日印の両国民が経済、人的交流、科学技術の交流など様々な面で互いに利益を享受でき、国民生活の質が良くなっていく事を望んでおります!

さて本題、今月の石のお話です!

当メルマガ2月号でご紹介したインドの銘石「カラハリ」。無事にインドを出港し厦門港に到着。崇武地区が新型コロナでロックダウンする前に協力工場に入荷しました。残念ながら、このメルマガを書いている3月下旬時点では、崇武地区の工場の多くが閉鎖を余儀なくされています。

今月号では、一日も早い工場再開と道路封鎖解除を願いつつ、メルマガをお読み頂いている皆様を御優先にこの「カラハリ」到着情報をご案内させていただきます!

一般的に中国の工場にインド原石を販売すると、工場が再度検品・検尺を行います。その結果、多少の交渉や相談事があるのは常なのですが、このカラハリの原石に関しては、原石が到着して検品が終わっても何一つ問題の相談が御座いませんでした。

逆に、「青味があってとても綺麗です。石質の難も無く、本当にいい原石です!」とお褒めのお言葉を頂戴したくらいです!



そんな「バッチリ！」な「カラハリ」と当社の関りは古く、1970年代から原石を輸入しています。なんと私が生まれる以前から取引が続いていることになります。

インドのパートナーから聞いた話では、この度購入したカラハリ原石は、私が入社する以前の90年代から採石に従事している職人さんも達も関わってくれていたとのこと。当時「若手」と言われた丁場

職人さんたちが、なんと約30年の時を経て、2022年の今もカラハリ丁場で大ベテランとして活躍しているという話を聞き感慨深いものがありました！！

本当に長いお付き合いです。感謝です！！



採掘され世に出れば、閉鎖され消えていくインド産の石が多い中、堀口は変わりながらも、半世紀の長きに渡って採石を継続し、日本のお客様に愛されてきた**伝統と実績**の銘石「カラハリ」です。

長い年月、日本のお客様からご用命頂けるのは、石の持つ美しさと魅力ゆえだと感じます。

中国では細目の丁場の多くが閉鎖され、工場も細目の石の在庫やラインナップが少なくなっています。

これまで、細目の石をご利用になっている地域の石材店様や、まだカラハリは使ったことがないという石材店様も、是非一度、JSCマークの「カラハリ」をお試し下さいませ！

皆様の御注文を心よりお待ちしております！

それでは、今月も最後までお読みいただきありがとうございました。
季節の変わり目、どうかご自愛くださいませ。